

柏市こども発達センターキッズルームひまわり支援プログラム

営業時間	午前8時30分から午後5時15分まで
サービス提供時間	午前9時50分から午後2時20分まで
送迎実施の有無	送迎あり（但し，利用条件あり）

1 事業所理念

子どもにとって、生活の大部分が遊びであり、遊びの中から様々な力を獲得していくものである。

幼児期で大切なことは、基礎の土台作りであり、色々な経験を積み重ねて基礎の部分を育てたいと考える。

そこで、幼児期の子どもにとって『遊び』は欠くことのできない学習機会であるため、遊びを通して必要な経験を繰り返し行い、脳に刺激を与えて運動面や知的面、言葉の獲得等、小集団生活の中で発達の支援をしていく。そして、目で見てわかりやすく、余分な刺激を減らし、動線を短くする等環境を整え、子どもが達成感や成功体験しやすいように配慮する。

クラス担任は、子どもの特性をよく理解し、子どもに関わる各職員と情報を共有し取り入れながら、一人一人に合わせた支援を行っていく。また、児童発達支援計画に沿って、保護者と共通理解を持ち療育を進めていく。

以上の事柄を踏まえ、以下の点を支援方針（目標）とし、活動を展開していく。

2 支援方針

(1) 感覚・知覚を育む

五感機能が成長できるように、色々な感覚に触れさせ遊びを経験させていく。その中で好きな遊びを見つけ、繰り返し遊ぶ

ことや新しい遊びに挑戦する等しながら遊びを広げていく。

(2) 意欲を育む

好きなもの、好きな人を作り、それを見つけて自分から関わりを持ち「おもしろい・楽しい」、「やってみたい」という経験をさせていく。

(3) 健康な体作りに取り組む

子どもが健康な生活を送るためには、睡眠・食事・排泄等の生活リズムを整えることが大切である。運動的な遊びや活動を通して、体を動かす楽しさを体験しながら健康な体作りをしていく。

(4) 基本的な生活習慣を身につける

食事・排泄・着脱・清潔等の基本的な生活習慣を身につけることは、子ども自身の生活を豊かなものにする。子どもの発達段階に合わせた目標設定や支援を行い、少しずつ自分でできることを増やしていく。

(5) 対人関係を育む

保護者や職員とのスキンシップや関わりの中で、豊かな感情を育てていく。そして、他の子どもを意識できるように環境を設定し、子ども同士で遊ぶ楽しさを体験させていく。

(6) 言葉・コミュニケーションの力を育む

楽しい遊びを経験しながら、自然に声を出せるように環境を設定していく。パネルシアターやペープサート、絵本等を見ながら物の名前を知らせていく。

(7) 学習の基礎的態を身につける

集団生活の場面では、大人の指示に従って行動できることが必要である。椅子に座る、待つ、ルールを守る等の行動ができるように、遊びやクラス活動の中で体験させていく。

(8) 保護者への支援

子どもの状態の理解や日常生活上での具体的な関わり方を学んでもらえるように、保護者と共通理解を図りながら支援を進めていく。

(9) 進路について

進路に関しては，子どもの状況，保護者の意向等を十分に把握して，関係機関との連絡・調整を行いながら，適切に対応していく。

3 支援内容【本人支援の内容と5領域との関連性】

(1) 健康・生活（基本的生活習慣）

ア 健康「生活リズムを作る」

(ア) 早寝早起きを習慣づけ，睡眠，覚醒のリズムを作る。

(イ) 日中の活動量が確保できるように，クラス活動を調整する。

イ 食事「食事に関する基本的技能の獲得」

(ア) 手洗いの仕方を覚える。

(イ) 自分の席を覚える。

(ウ) 着席して食事をすることを覚える。

(エ) 調理方法の工夫，食器の工夫等を行う。

(オ) 食べたい気持ちを育てる。

(カ) 偏食を減らす。

(キ) 自食を促す(食具の操作を覚える，こぼさず食べる)。

(ク) 食器や手拭きタオル，椅子を片付ける。

ウ 排泄「子どもに合った方法での排泄習慣がつくよう促す」

(ア) おむつの確認をする。快適な状態を心がける（尿や便の量や状態を見て健康状態を知る）。

(イ) おむつをはずし，快・不快を感じられるようにする。

(ウ) 排泄時のサインをつかむ。

(エ) 時間排泄の確立（トイレ，便器に慣れる）。

(オ) 排泄の仕方を覚える（下衣の着脱，トイレットペーパーで拭く，水を流す等）。

エ 着脱「子どもに合った方法での着脱習慣がつくよう促す」

(ア) 着脱の意識づけを行う。

(イ) 着脱しやすい衣服の検討を行う。

- (ウ) 姿勢に配慮する（座位，立位）。
- (エ) 着脱の仕方を覚える（衣服，靴，帽子）。

オ 清潔

- (ア) 手洗いの仕方を覚える。
- (イ) うがいの仕方を覚える。
- (ウ) タオルで手や口を拭く動作を覚える。
- (エ) 歯磨きの仕方を覚える。
- (オ) 鼻を拭く（かむ）やり方を覚える。

カ 生活環境「構造化により生活環境を整える」

- (ア) 遊びを通して学習できるよう環境を整える。
- (イ) 障害特性に配慮し，時間や空間をわかりやすく構造化する。

(2) 運動・感覚

ア 体を動かす遊び

- (ア) 子どもの体の部位（手，足，顔等）を意識させる（手遊び，体操，リズム，リトミック等）。
- (イ) 他動的に動かして体の機能を高める。

大人の体や道具（バランスボール，トランポリン，巧技台等）を使用して行う。

- (ウ) 色々な動きや姿勢を経験させ慣れるようにする。

寝返りから立位までの動きや色々な姿勢に慣れるように，曲に合わせて手足を十分に使いわせる（リズム，リトミック等）。

- (エ) 自発的な動きを引き出す。

子どもの好きなものや遊びを利用し，動きを引き出す。

- (オ) 散歩をする。

歩き続ける持久力の向上をさせる。手を繋いで歩くことや道路を歩く時の安全面を意識させる。

イ 体の感覚を育てる遊び

- (ア) からだうた遊び。

(イ) 皮膚を刺激する遊び。

感触に慣れ，楽しんで行えるよう配慮する。

(砂，糊，水，プール，紙，粘土，ボールプール等)

(ウ) 前庭感覚遊び。

子どもの状況に合わせて取り組むようにする。

(シーツブランコ，トランポリン，ブランコ，滑り台，
感覚統合器具等)

(エ) 五感を使って楽しむ遊び。

散歩や戸外遊びをとおして風や日差しなど自然を感じる。

(3) 認知・行動

ア 見る力を育てる

(ア) 注視・追視を促す。

(ペープサート，パネルシアター，紙芝居，大型絵本，
教材等)

(イ) 視野に入る距離で，色や形のはっきりしたものを見せる。

イ 目と手の協応を促す

(ア) 製作遊びや玩具等をとおして手指の操作を引き出し，
楽しみながら取り組めるよう配慮する。

(イ) 手元を意識させるようことばかけをして，変化にも気づかせるようにする。

ウ 模倣を促す

(ア) 楽しい雰囲気の中で，手遊びや動作を真似る機会を作る。

(イ) 体操，リズム，リトミックの場面で，時々手を添えたり
声をかけたりしながら，同じ動作ができるように促す。

エ 聞く力を育てる

(ア) 歌やお話を一緒に楽しむ。

(イ) 声，楽器，おもちゃ等の音に触れる機会を作る。

(ウ) 歌やお話に注意を向けられるよう座る場所や音の大き

さなどに配慮する。

オ 指示に応じて行動できる力を育てる

(ア) 着席行動を促す。

(イ) 待ち時間に配慮しながら順番待ちを経験する。

(ウ) 簡単なルールがある活動やゲームを経験し、指示に応じる力を育てる。

(4) ことば【言語・コミュニケーション】

ア 呼名による返事

声を出す，手をあげる，先生の顔を見る等の表現を引き出す。

イ ことばの理解

(ア) 日常生活に使われる簡単なことばを人とのやりとりや動作を通して理解できるよう促す(「おはよう」，「ちょうだい」，「バイバイ」等)。

(イ) 遊びを通してことばと物事が一致できるよう促す。

ウ 表現

(ア) 発声，単語，二語文，三語文他，身振りや代替コミュニケーション手段も含め，自分なりに表現できるよう援助していく。

(イ) 代替コミュニケーション手段や道具の工夫をする(指差し，身振り，写真カード，絵カード等)。

(5) 情緒・社会性【人間関係・社会性】

ア 人への興味を引き出す

好きな遊びをしながら顔を見せつつ声かけし，人への関心を引き出す。

イ 人への要求を引き出す

繰り返し同じ活動を行い，「もっと〇〇したい」という要求を引き出す。

ウ 友だちへの意識を育てる

大人が媒介となり，友だちと関わる場面や遊びを共有する場面を設定する。

エ 自我を育てる

- (ア) 親子関係を基本とし，人間関係を広げていけるよう促す。
- (イ) 親以外の人と関わる経験を通し，情緒的交流を深めていくようにする。
- (ウ) 自己主張や他者の要求を受け入れる経験を重ねながら，集団の中で気持ちをコントロールする経験をさせていく。
- (エ) 当番や簡単な手伝いを通し，役割意識や達成感を味わう経験をする
- (オ) 大人との関係が広がってきたら，少しずつ子ども同士で関わる場面を設定し，子どもへの関心を高めていく。

4 家族支援

- (1) 家族の子育てに関する困りごとに対して，具体的な介助方法の助言を行う。
- (2) きょうだいに関する相談の実施（きょうだいの参観等）。
- (3) 個別面談や家庭訪問の実施。
- (4) 保護者研修会の実施。
- (5) クラス懇談会等で保護者同士のつながりの場を提供する。
- (6) 個別サポートファイルの利用を勧める。

5 移行支援

- (1) 進路や移行先の選択に関する相談を行う。
- (2) 移行先との支援内容の共有，子どもの状態，支援方法について引継ぎを行う。

6 地域支援・地域連携

- (1) 子どもが通う医療機関や福祉サービス事業所等と連携し，情報共有しながら子どもや家族の支援を行う。
- (2) 子どものライフステージに応じた切れ目のない支援が実施できるよう，地域の関係機関と連携しながら支援を行う。
- (3) 保育所等訪問支援事業を実施し，地域の施設と連携を図る。また，地域で暮らす障害児の生活が豊かなものになるよう，保

育園等に対して、支援方法の助言や専門機関との連携方法、支援等についての研修を行う。

7 職員の資質向上

(1) 外部研修への参加。

(2) 職場内研修の実施（外部講師を招いての研修会，事例検討，虐待防止等）。

8 主な行事等

入園式・始業式，保護者参観，プール・水遊び，運動会，親子散歩，クリスマス会，卒園式等

1 日の流れについて（日課）

1 朝の受入れ（9：50～）

○欠席連絡の受付時間は，当日朝8時20分～8時40分まで

* 8時40分以降の連絡は給食食材の実費負担を求める。

○登園後の身支度。

①バスからクラスまで歩いて移動する。

②靴を脱ぎ，靴箱に入れる。

③鞆や手提げ袋をロッカーに入れる。

④靴下を脱ぎ，排泄や手洗いを行う。

⑤鞆（リュックサック）のファスナーを開ける。

⑤かごに連絡帳やコップ，タオルを入れる

⑥出席ノートにシールを貼る。

⑦鞆（リュックサック）のファスナーを閉める。

⑧鞆（リュックサック）をロッカーにしまう。

⑨検温

⑩自由遊び（園庭や室内で，好きな遊びをする。）

2 朝の集まり（10：35～）

朝の集まりは，2グループに分けて行う。リーダーはクラスごとに交代する。

①クラスの名前で返事をする

クラスの名前を覚える。

②体操（1か月ごとに体操を変える）

動作模倣を促す。

③おはようの歌

着席行動を促す。

④「がんばりまん」の歌（呼名）

友だち一人ひとりを意識する。

期待感を持って自分の番を待つ。

⑤手遊び・ポーズ

動作模倣を促す。

3 活動（11：00～）

(1) こどもの生活体験が楽しく豊かになるための療育内容を取り入れる。

(2) 順番待ちや交替する場面，友だちとの関わり等，小集団の中で経験させていく。

(3) 週案で活動内容を保護者へ伝えていく（週末に週案を配布，週案会議は毎週水曜日に実施）。

ア 呼名

「どこでしょう」，「いないいないばあ」，「双眼鏡」等

※写真カードを使用しながら，自分や他児の名前を覚えさせていく。

(ア) 手を挙げる，タンバリンを叩く。

(イ) 声を出す，職員と手を合わせる，「はい」と返事をす

る。

(ウ) リーダーの職員に注目する，視線を合わせる。

イ パネルシアター・紙芝居・絵本

※活動内容を意識できるように，目的を持って視聴覚教材を使用する。

(ア) 着席行動を促す。

(イ) 見る力や注目する力を育てる。

(ウ) 聴く力を育てる。

ウ クラス活動

(ア) 体作り（運動的遊び）

散歩，リズム，リトミック，サーキット遊び，巧技台，トランポリン，バランスボール，ジャングルジム等

(イ) 感覚機能（感覚遊び）

砂，水・プール，粘土，ボールプール，シーツブランコ・ブランコ，滑り台，感覚統合器具等

(ウ) 手操作（手指を使う遊び）

ちぎり紙，粘土，シール，製作（糊，ハサミ），洗濯ばさみ，お絵描き・絵の具，教材，パズル，楽器等

(エ) 言葉の獲得（言葉を促す遊び）

シャボン玉（息を吹く），紙芝居，絵本，ペープサート，パネルシアター，ハーモニカ，笛等

(オ) 対人関係・社会性

大人とのふれあい遊び（手遊び，ガタガタバス，なべなべそこぬけ），電車ごっこ（２人組遊び），ゲーム遊び，リズム等

4 食事（12：00～）

(1) 各クラスで食堂へ移動し，手洗いを済ませた後，職員と一緒に食堂へ入室し，自分の席に座る。

(2) クラス全員で「いただきます」をしてから食べ始める。

(3) 子どもの状態に合った食具や食器を使用して食事をする。

※職員は子どもの状態に合わせ介助をしていく。

(4) 食事が終わったら，自分の使った食器やタオルを片付ける。

(5) 食べ終わった子どもの把握

⇒食べ終わった子どもから，職員と一緒にクラスへ戻る。

5 歯みがき・トイレ（12：45～）

(1) 歯磨きは，必ず職員と一緒に行う。自分で歯を磨ける子どもについても，子どもが終わった後に職員が仕上げ磨きをする。

(2) 歯ブラシとコップは毎日持参し，帰宅後に保護者が歯ブラシやコップの洗浄を行う。

(3) 歯磨きが終わった子どもは，クラス内で絵本等を見て午後の自由遊びの時間まで過ごす。

6 午後の活動（13：00～13：40）

(1) 園庭遊び

ア 好きな園庭遊具で遊ぶ（滑り台，ジャングルジム，ブランコ，砂場，三輪車等）。

イ 職員や子どもと遊ぶ（追いかっこ，ごっこ遊び等）。

(2) 室内遊び

ア 好きな教材やおもちゃで遊ぶ。

イ 交流遊び（各クラスの子ども達と設定遊びの中で関わる）。

7 降園準備（13：40～13：50）

(1) 帽子と靴下をロッカーへしまう。

(2) 排泄と手洗い

順番に職員とトイレへ行き，排泄（オムツ交換）や手洗いを済ませる。

(3) 水分補給（麦茶を飲む）

ア 担任から麦茶をもらって飲む。

イ 飲み終わったらトレーにコップを片付ける。

8 帰りの会（13：50～14：10）

(1) 帰りの活動

ア 「はじまるよアンパンマンのうた」

イ 簡単な活動

運動遊び，パネルシアター，大型絵本，ペープサート等

※歌やお話に注意を向けられるよう位置や音の大きさ等に配慮する。

ウ 呼名

(2) 帰りの歌

「おかえりのうた」⇒一日の終わりを意識する。

(3) バスへ移動

ア 靴下を履く。

イ ロッカーから荷物を出す。

ウ 鞆（リュックサック）を背負い，手提げ袋を自分で持って待つ。

エ 靴を履く。

オ 職員と手を繋いでバスまで歩く。

9 降園（14：20）

バスに乗車し降園する。

※自力降園者は，ロータリーで保護者へ子どもを引き渡す。